

令和7年6月11日

伝染性紅斑の流行について

1 概要

感染症発生動向調査事業に基づく、県内の伝染性紅斑の患者報告数が、第23週(6/2～6/8)に1定点医療機関当たり2.36人(85人)となり、約6年ぶりに警報基準である2.0人を超えました。

感染予防のため、こまめな手洗いや咳エチケットを心がけることが大切です。

2 感染症発生動向調査事業

伝染性紅斑は、県内36か所の定点医療機関から報告があります。

| | 警報 | |
|-------------------------|-------|-------|
| | 開始基準値 | 継続基準値 |
| 1 定点医療機関 当たりの患者数 (人) | 2.0 | 1.0 |

3 発生状況

大分県の伝染性紅斑発生状況

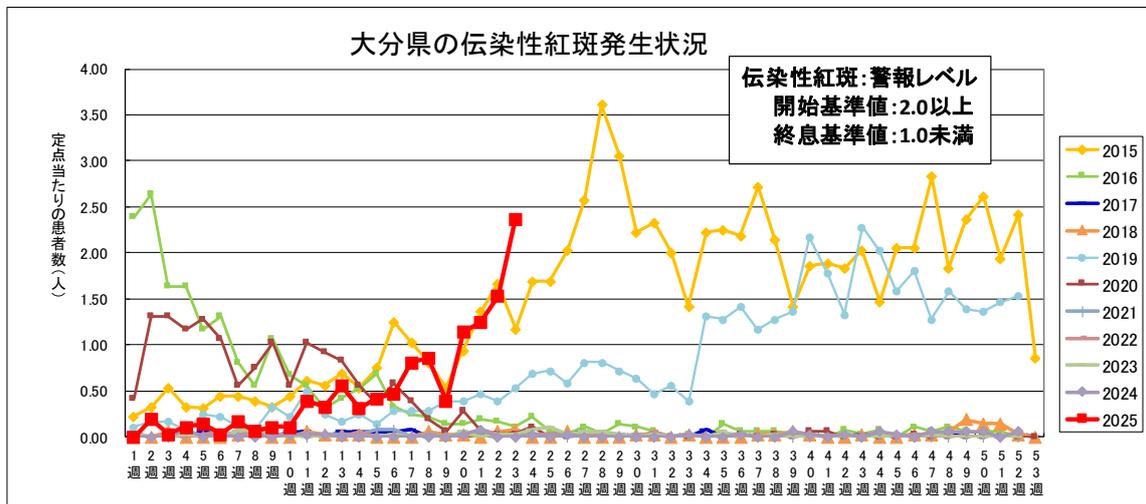
週別伝染性紅斑患者数(大分県、全国)

| | 週 | 日 | 大分県(定点36力所) | | 全国 | |
|-------|-----|-------------|-------------|-------|-------|-------|
| | | | 患者数 | 定点当たり | 患者数 | 定点当たり |
| 2025年 | 12週 | 3/17 ~ 3/23 | 12 | 0.33 | 2,074 | 0.67 |
| | 13週 | 3/24 ~ 3/30 | 20 | 0.56 | 2,565 | 0.82 |
| | 14週 | 3/31 ~ 4/6 | 11 | 0.31 | 1,889 | 0.63 |
| | 15週 | 4/7 ~ 4/13 | 15 | 0.42 | 2,670 | 1.13 |
| | 16週 | 4/14 ~ 4/20 | 17 | 0.47 | 2,963 | 1.25 |
| | 17週 | 4/21 ~ 4/27 | 29 | 0.81 | 3,073 | 1.30 |
| | 18週 | 4/28 ~ 5/4 | 31 | 0.86 | 2,712 | 1.16 |
| | 19週 | 5/5 ~ 5/11 | 14 | 0.39 | 2,680 | 1.14 |
| | 20週 | 5/12 ~ 5/18 | 41 | 1.14 | 4,834 | 2.05 |
| | 21週 | 5/19 ~ 5/25 | 45 | 1.25 | 4,656 | 1.97 |
| | 22週 | 5/26 ~ 6/1 | 55 | 1.53 | 4,402 | 1.87 |
| | 23週 | 6/2 ~ 6/8 | 85 | 2.36 | | |

大分県感染症発生動向調査事業

保健所別の状況

| 23週 | 患者数 | 定点当り |
|-----------|-----------|-------------|
| 総数 | 85 | 2.36 |
| 東部 | 3 | 0.43 |
| 中部 | 17 | 5.67 |
| 南部 | 0 | 0.00 |
| 豊肥 | 0 | 0.00 |
| 西部 | 18 | 6.00 |
| 北部 | 3 | 0.50 |
| 大分市 | 44 | 4.00 |



4 感染予防策等について

【伝染性紅斑とは】

ヒトパルボウイルス B 19 の感染を原因とする感染症で、両頬に蝶形の紅斑が出現することが特徴で、小児を中心にみられます。両頬がリンゴのように赤くなることから、リンゴ病と呼ばれることもあります。典型的な症状を示さない症例や感染しても症状がない症例（不顕性感染）も多く見られます。

【症状】

感染から約 10～20 日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、頬に境界鮮明な紅い発疹が現れます。続いて、体や手・足に網目状・レース状・環状などと表現される発疹が出現します。発疹は体幹部（胸腹背部）にも出現することがあります。

これらの発疹は 1 週間前後で消失し、成人では関節痛・頭痛などを訴えることもありますが、ほとんどの症例では合併症を起こすことなく自然に回復します。

発疹出現の 7～10 日程前に、微熱や感冒様症状などが見られることが多いですが、この時期にウイルス血症を起こしており、ウイルスの排泄量が最も多くなっています。発疹が現れたときにはウイルス血症は終息し、ウイルスの排泄はほとんどなく、感染力はほぼ消失しています。

これまで伝染性紅斑に感染したことの無い女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性があります。熱や倦怠感の出現後に発疹が出るなど、伝染性紅斑を疑う症状がある場合は、医療機関に相談しましょう。また、不顕性感染もあるため、周囲に伝染性紅斑の人がいる場合は、妊婦健診の際に、医師に伝えてください。

【感染経路】

感染した人の咳のしぶき（飛まつ）を吸い込むことによる感染（飛まつ感染）や、感染者と接触したりすることによる感染（接触感染）が知られています。

【予防について】

発疹（紅斑）の出現時期にはほとんど感染力を消失しています。また、ウイルス排泄時期には特徴的な症状を示さないため、効果的な二次感染予防策はありません。日頃から手洗いの励行や咳エチケット（咳・くしゃみをする際に、マスクの着用やティッシュ・ハンカチ、袖を使って、口や鼻をおさえること）を心がけることが大切です。

【問合せ先】

大分県福祉保健部健康政策・感染症対策課

感染症対策班 佐藤、北川

電話：097-506-2776